

授業科目名	コミュニティビジネス論	大学名	作新学院大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	前期（4月9日～7月31日）
学部・学科等	経営学部・経営学科	曜日	未定
必修・選択区分	選択	時限（時間）	未定
標準対象年次	2学年以上	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	作新学院大学 講義室
担当教員名	張 海燕		
電話番号 （代表者名）	028-667-7111（大代表）	e-mail アドレス	tyokaien@sakushin-u.ac.jp
オフィスアワー	特に設けず、e-mailや電話で予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい> 今日、日本は人口減少、超高齢社会を迎えています。それと同時に都市部が豊かさや賑わいを失いつつ、農村にある日本の原風景や自然の生態系も消失の危機に瀕しています。社会の担い手の不足も大きな問題となっています。こうした複雑で、重層的な社会的課題に対して、解決の鍵を握っているのは、コミュニティ・ビジネスだと言われています。コミュニティ・ビジネスは地域の住民が主体として地域の課題をビジネス的な手法で解決し、その活動で得た利益を地域に還元するビジネスモデルです。この授業では、コミュニティ・ビジネスの概念、役割と意義について学習します。また、実際の事例を通じて、コミュニティ・ビジネスの仕組み、手法についても勉強できます。</p> <p>この講義を通じて、現在、日本の地域が抱える社会的課題のについて知り、理解することができます。また、実際の事例を調査・分析することにより、コミュニティ・ビジネスの意義と手法について考察できるようになります。</p> <p><前提とする知識・経験> 特になし</p> <p><授業内容と具体的な進め方> コミュニティ・ビジネスの現状、意義及び理論的研究の紹介及び事例研究を主な内容とします。具体的な進め方は、授業は講義とグループワークや発表などを中心とします。受講生が講義で学んだ理論や知識を活用しながら、自らコミュニティ・ビジネスの事例を調べ、その事例を理論と結びつけ、自主的な分析を実施していく形式です。</p> <p><授業計画> 第1回 イントロダクション コミュニティとは何か？ 第2回 コミュニティ・ビジネスの意義と課題 第3回 日本におけるコミュニティ・ビジネスの現状① 第4回 日本におけるコミュニティ・ビジネスの現状② 第5回 コミュニティ・ビジネスの担い手や住民団体 第6回 商店街再生とコミュニティ・ビジネス 第7回 事例調べ、事例紹介 第8回 過疎地域再生とコミュニティ・ビジネス 第9回 事例調べ、事例紹介 第10回 地方創生のための観光（コミュニティ・ビジネス） 第11回 事例調べ、事例紹介 第12回 コミュニティ・ビジネスとしてのDMO 第13回 事例調べ、事例紹介 第14回 事例調べ、事例紹介 第15回 まとめ * 期末試験</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 教科書：使用しない。講義レジュメやスライド資料等を配付する。 参考書：風見正三 山口浩平 編著（2016）『コミュニティ・ビジネス入門—地域市民の社会的事業』学芸出版社 細内信孝（2012）『新版 コミュニティ・ビジネス』学芸出版社</p> <p><成績評価法> 期末テスト（筆記試験）、レポートの提出や授業への取り組み方等を総合的に見て評価します。</p> <p><教員からのメッセージ> コミュニティ・ビジネスの授業を通じて、将来、自分達は何のための働くのか、どんな働き方をしたいのか、などの問いにヒントが見つかるかもしれません。先生が一方向的に教えるだけでなく、受講者が自主的な学習姿勢を大事にします。</p>		